

『農業経済研究』投稿細則

(目的)

第1条 『農業経済研究』(以下「和文誌」という)投稿規程に基づき、対象原稿について様式等の詳細を定めるためにこの細則を設ける。

(対象原稿)

第2条 この細則の対象となる原稿は、投稿原稿(論文、報告論文、研究動向、談話室)、大会報告(各シンポジウムの報告、記念講演、会長講演、座長解題等)、依頼原稿(書評等)、及び「編集委員会規程」第6条第2項に定める編集方針に関わって編集委員会が特に認めた原稿である。投稿原稿に含まれるものであっても、和文誌編集委員会が執筆を依頼する場合がある。

(原稿の様式)

第3条 原稿の様式は次のとおりとする。報告論文については別に第5条に定める。

1) 書式

- (1) 原稿はワープロソフトで作成し、A4判横書き、1段組で40文字×30行とする。
- (2) 余白は上下左右各30mmとする。
- (3) 指定のない限り、フォントは、和文字は明朝、英数字はTimes New Romanを用い、サイズは11ポイントとする。
- (4) 読点はコンマ、句点はピリオドとする。
- (5) ページ番号を下余白に、行番号を左余白にそれぞれ記入する。

2) 初回投稿時の分量(図表込み)

- (1) 論文、研究動向、大会報告のうち各シンポジウムの報告と記念講演は25,000字以内とする。
- (2) 大会報告のうち会長講演は10,000字以内とする。
- (3) 大会報告のうち座長解題は、著者である座長と和文誌編集委員会で判断する。
- (4) 談話室は2,000字以内とする。
- (5) 書評は3,000字以内とする。

3) 見出し

節・小節・項の見出しのフォントはゴシック11ポイントとする。見出しに使用する番号は、次の順序とする。

節：1.、2.、…

小節：1)、2)、…

項：(1)、(2)、…

4) 註

本文の註は脚注とする。脚注番号の前後に「(註)」を加筆して、例えば、脚注番号が1の

場合は「(註 1)」と表記する。

5) 文献の引用

文献の引用(本文・脚註・図表)は、著者の姓の後に刊行年(西暦)をカッコ付きで続ける。著者が2名のときは著者の姓を「・」ないし「and」でつなげる。著者が3名以上のときは筆頭著者の姓のみを明記し、第2著者以降は「ら」ないしは「et al.」として省略する。自著の引用も同様とする。同じ著者による複数の文献が同一刊行年の場合は、刊行年の後に a、b、c、… を付けて区別する。文献から内容の一部を引用する場合は、下記の例示に従う。

例:「…である」(田中, 2000 : p.15)

鈴木ら(2005 : p.2)によれば「…」である。

6) 表記、単位

固有名詞などで必要な場合を除いて、現代仮名使いと常用漢字を用いる。単位は kg、%、m、ha などの記号で表記する。

7) 数式

数式には、本文全体を通じた連番を割り付ける。スカラーとベクトルの相違、変数とパラメータの相違など、区別がつくように表記する。

8) 引用文献リスト

引用文献リストは、「引用文献」の見出しの後に一括して記載する。リストは、著者姓(family name)についてアルファベット順とし、同一著者の文献が複数あるときは、刊行年の古いものを先に記載する。また、同じ著者による同一刊行年の文献が複数ある場合は、刊行年の後に a、b、c、… を付して区別する。なお、著者が複数のときには著者名を「・」ないし「and」でつなぐ。和文では全角のコンマ「、」と全角のピリオド「。」を用い、半角のコンマと半角のピリオドは使用しないものとする(但し、URL は除く)。また、フォントについては、和文字は MS 明朝、英数字は Times New Roman とする。表記の仕方は以下の例示に従う。

(1) 和文雑誌の引用

有本寛・中嶋晋作・富田康治(2014)「区画の交換による農地の団地化は可能か?—シミュレーションによるアプローチ」『農業経済研究』86(3) : 193-206.
<http://doi.org/10.11472/nokei.86.193>.

高橋大輔(2011)「日本の食品関連産業による海外進出と撤退の動向」『2011 年度日本農業経済学会論文集』: 134-141.

※ 受理済だが掲載巻ページ不明の場合には、『農業経済研究』(近刊)

※ オンラインでも入手可能な場合には、doi をつける。

(2) 和文書籍の引用

川島丈太郎(2006)『戦前期日本の食糧政策』民政出版.

マックス・ウェーバー(1989)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(大塚久雄訳) 岩波書店.

※ 外国人著者名がカタカナ表示の場合は、姓と名の間に「・」を入れる。また、複数著者の場合は著者に日本人が含まれる場合でも「,」でつなぐ。

(3) 和文書籍（編著）の章の引用

島田晴彦(2002)「アグリビジネス分析の視点と方法」持田直弘・南太郎編著『アグリビジネスの計量分析』農業大学出版会：3-15.

※ 編著者にカタカナ表示の外国人名が含まれる場合には、(2) の※に準ずる。

(4) 外国語雑誌の引用

Maru, T. (2016) How Social Customs Restrict EU Accession Effects on Female Labor Participation in Agricultural Production in Rural Adana, Turkey: A Simulation Analysis, *Japanese Journal of Rural Economics* 18(1): 17-31. <http://doi.org/10.18480/jjre.18.17>.

Kunimitsu, Y., T. Iizumi, and M. Yokozawa (2013) Is Long-term Climate Change Beneficial or Harmful for Rice Total Factor Productivity in Japan: Evidence from a Panel Data Analysis, *Paddy and Water Environment* 12(2): 213-225. <http://doi.org/10.1007/s10333-013-0368-0>.

※ 受理済だが掲載巻ページ不明の場合には、

Japanese Journal of Rural Economics (forthcoming)

※ オンラインでも入手可能な場合には、doi をつける。

(5) 外国語書籍の引用

Geode, C. and T. R. Kompsom (1983) *Applied Production Economics: Theory and Application*, New York: APOT Press.

(6) 外国語書籍（編著）の章の引用

Berogman, T. E. and W. K. Destwanger (2005) The Role of Information in Applied Consumption Analysis, in A. K. Weisman, ed., *Economics of Consumer Behavior*, London: White University Press, 111-133.

※ 編者が複数の場合は全員の名前を連記し、ed. を eds. に変更する。

(7) ディスカッション・ペーパー

山下一仁(2009) 環境と貿易の経済分析, RIETI Discussion Paper Series 09-J-028, 東京：独立行政法人経済産業研究所, <https://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/09j028.pdf>.

Mobarak, A. M. and Rosenzweig, M. (2012) Selling formal insurance to the informally insured, Yale University Economics Department Working Paper No. 97, New Haven: Department of Economics, Yale University. <https://ssrn.com/abstract=2009528>.

※ オンラインでも入手可能な場合には、URL をつける。

(8) WWW に掲載されている情報（掲載年が不明な場合は省略可）

農林水産省(2008)「食料自給率の部屋」, <http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/index.html> (2009年12月1日参照).

U.S. Department of Agriculture (2014) Agricultural Act of 2014: Highlights and Implications, <http://www.ers.usda.gov/agricultural-act-of-2014-highlights-and-implications.html> (accessed

on October 1, 2014).

9) 図表

図表は本文中に割り付けず、別紙 1 枚に 1 つずつ記載する。図表の挿入箇所は本文原稿の右余白に示す。図表はモノクロで明瞭かつ鮮明に作成し、表題は内容を簡潔かつ具体的に表現したものとする。それぞれ「第 1 図 …」「第 1 表 …」のように、表題の前に連番を付け、表は上に、図は下に記載する。

10) 付記

表示義務がある場合や謝辞のために、本文と引用文献の間に付記を記載することができる。ただし、和文誌編集委員会、査読者、著者の指導教員など所属機関の直属の上司に該当する者は謝辞の対象から除く。また、付記は最終原稿の提出時に記載する。

(原稿の構成)

第 4 条 原稿の構成は次のとおりとする。

1) 論文、研究動向、大会報告のうち各シンポジウムの報告と記念講演

(1) 第 1 ページ

和文表題（副題がある場合は、主題の次行にダッシュで閉じて記入する）、和文要旨（300 字以内。課題、方法、結論を含み、原稿の内容を忠実に要約したもの。文献の引用は避ける）、和文キーワード（5 つまで記入可能）。著者名と所属は記載しない。

(2) 第 2 ページ

英文表題（副題がある場合は、主題の末尾にコロンを付け、続けて記入する）、英文要旨（和文要旨と同じ内容であること。文字数の制限は設けない）、英文キーワード（和文キーワードに対応するもの）、著者名と所属は記載しない。

(3) 第 3 ページ以降

本文、引用文献、図表の順とする。

2) 大会報告のうち会長講演と座長解題、談話室、書評

(1) 第 1 ページ

和文表題（副題がある場合は、主題の次行にダッシュで閉じて記入する）。談話室については、著者名と所属は記載しない。

(2) 第 2 ページ以降

本文、引用文献、図表の順とする。

(報告論文の原稿)

第 5 条 報告論文の様式は次のとおりとする。

1) 書式

- (1) A4 判横書きで、本文の前までは 1 段組で 48 文字×46 行、本文は左右 2 段組で、片段 24 文字×46 行×2 段とする。

- (2) 余白は上下各 25mm、左右各 20mm とする。
- (3) 図表はモノクロで作成し、片段に収まる場合は片段でセンタリングする。左右両段にまたがる場合は両段でセンタリングする。片段、両段ともに、図表と余白の間に文章は記載しない。また、余白にはみ出ないようにレイアウトする。
- (4) 読点はコンマ、句点はピリオドとする。

2) 原稿の構成

原稿は「報告論文原稿用テンプレート」を使用して作成し、以下の構成と合致していることを確認する。ただし、投稿時には次の (3) と (7) に示す著者名と所属は記入せず、空行をそのまま残す。(3) と (7) に示す著者名と所属は掲載決定後に記入する。

- (1) 和文表題を中央に置く (MS 明朝 14 ポイント)。副題がある場合は、主題の次行にダッシュで閉じて中央に置く (MS 明朝 10 ポイント)。
- (2) 1 行空ける。
- (3) 著者名 (中央に置く。MS 明朝 14 ポイント。著者名の後に所属別に番号を上付きで付ける。著者が複数の場合は「・」で区切って横に続ける。コレスポンディング・オーサーは所属を示す番号の後に「*」を付ける)。
- (4) 1 行空ける。
- (5) 英文表題を中央に置く (Times New Roman 14 ポイント)。副題がある場合は、主題の末尾にコロンを付け、続けて記入する (中央に置く。Times New Roman 14 ポイント)。
- (6) 1 行空ける。
- (7) 著者名と所属の英語表記を中央に置く (Times New Roman 10 ポイント)。所属は著者名の後に置き、カッコで括る。複数の場合は改行して下に続ける。
- (8) 1 行空ける。
- (9) 100 words までの英文サマリーを均等割り付けする (Times New Roman 10 ポイント)。
- (10) 1 行空ける。
- (11) 3 words のキーワード。Arial 10 ポイントで「Key words:」と書き、その後に Times New Roman 10 ポイントで 3 words をコンマで区切って横に続ける。
- (12) 1 行空ける。
- (13) 節の見出し (MS ゴシック 10.5 ポイント)。
- (14) 本文は、和文字は MS 明朝 10 ポイント、英数字は Times New Roman 10 ポイントとする。

3) 原稿の分量

初回投稿時から掲載決定時まで、原則 4 ページ、上限 6 ページとする。3 ページ以下の原稿は認めない。

4) 註

- (1) 所属とコレスポンディング・オーサーは脚註部分に記載するが、投稿時には記入せず、空行をそのまま残す。掲載決定後、はじめに所属を記入し、所属の前に対応する著者の番号を上付きで付ける (MS 明朝 9 ポイント)。複数の場合は改行して下に続ける。次に、コレスポンディング・オーサーの電子メールアドレスを記入する (「Corresponding author *」と記載した後に、該当者の電子メールアドレスを記入する (Times New Roman 9 ポイント))。
- (2) 本文の註はすべて脚註とする。和文字は MS 明朝 9 ポイント、英数字は Times New Roman 9 ポイントとする。テンプレートを使用して「脚注の挿入」機能 (バージョンによってメニューは異なる) を選択すると、本文と脚註部分に脚註番号が挿入されるので、番号の前後に「(註)」を加筆する。以上の手順で、例えば、脚註番号が 1 の場合は「(註 1)」と表記される。

5) 見出し

見出しは第 3 条第 3 項に準じる。ただし、MS ゴシック 10.5 ポイントとする。

6) 文献の引用

文献の引用は第 3 条第 5 項に準じる。ただし、MS 明朝 10 ポイントとする。

7) 表記、単位

表記、単位は第 3 条第 6 項に準じる。ただし、MS 明朝 10 ポイントとする。

8) 数式

数式は第 3 条第 7 項に準じる。ただし、文字の大きさは 10 ポイント程度とする。

9) 引用文献リスト

引用文献リストは第 3 条第 8 項に準じる。ただし、和文字は MS 明朝 9 ポイント、英数字は Times New Roman 9 ポイントとする。

10) 付記

付記は、研究成果の発表に際して表示義務のある研究資金を利用した原稿である場合に限り、その研究資金について表示することを認める。

11) 投稿審査料・掲載料等

投稿審査料は 5 千円とする。投稿審査料は、投稿前に日本農業経済学会 (以下「本会」という) 事務局へ納付しなければならない。投稿前に投稿審査料の納付がなされない場合は、当該論文を審査の対象としない。掲載料は、4 ページで 2 万円、5 ページで 3 万円、6 ページで 5 万円とする。また、英文サマリーの校閲料として、実費を負担とするものとする。

(別刷)

第 6 条 論文、研究動向、大会報告のうち各シンポジウムの報告、記念講演、会長講演については別刷 20 部を贈呈する。21 部以上を希望する場合、超過分は有料となる。著者校正時に希望部数を申し込む。

(改正)

第7条 この細則の改正は編集委員会で決定し、本会ホームページで公示する。

附則

この細則は第85巻2号(2013年9月)掲載の原稿より適用する。

附則

1. この細則は2014年11月1日以降の投稿原稿から適用する。
2. 2014年度大会の大会報告原稿及び『日本農業経済学会論文集』和文原稿については、なお従前の例による。

附則

この細則は2016年3月29日から施行する。

附則

1. この細則は2018年5月28日以降の投稿原稿から適用する。
2. 2018年度大会の報告論文原稿については、なお従前の例による。

附則

この細則は2019年4月1日以降の投稿原稿から適用する。